「四支部合同レクリェーション」　庄内支部　長沢美穂

7月6日、4支部合同レクリェーションがありました。今回の担当は置賜支部。パークゴルフとバーベキューということで、米沢牛が食べられるかも？という期待をしながら庄内から6時半出発で向かいました。当日は梅雨だというのに30℃を超える真夏の日差し。18ホール全部まわる頃には、かなりの汗だくになりました。パークゴルフは初めてだったので、最初は力の加減が全くつかめず空振りしたりOBしたりと散々でしたが、だんだんコツをつかんでバーディーでまわれるようにもなりました。おかげで景品まで貰ってしまいました。笑ってしまうくらい大きいパインの缶詰だったので、どうやって食べようか悩んでいます。バーベキューは食べ切れない、飲み切れない量でかなり満足しました。すでにお腹いっぱいになっていたのに、追加でまたさらに料理やデザートが運ばれてきたのはびっくりしました。パークゴルフ中や、バーベキューをしながらのみなさんとの会話がすごく楽しかったです。大勢で食べるご飯はやっぱりおいしい！またパークゴルフしたいですね。

帰りはすごいどしゃ降り。あんなに強かった日差しがウソみたいでした。私は雨女だけど、技工士会には晴れ男か女がいるようです。帰りの車中も遠足のようで、楽しい会話とBGMで一日たっぷりと楽しむことができました。置賜支部のみなさん、ありがとうございました。

第30回山形県歯科医師会・歯科技工士会共催学術講演会

技工士会副会長　　櫻井　利浩

平成20年11月2日（日）午前10時より山形ビッグウイングにおいて、第30回山形県歯科医師会・歯科技工士会共催学術講演会が、第11回山形県歯科保健大会と併催で行われた。講演会に先立ち、前日の1日午後6時30分より山形グランドホテルにおいて、第30回を記念して前夜懇親会を、講師の桑田正博先生にご出席を賜り、また山形県歯科医師会佐藤博嗣会長、鈴木基常務理事にご出席いただき開催された。桑田先生より、佐藤会長とのご関係、そして山形とのかかわりなどを話され、昔話から現在の歯科界にわたり幅広い話題で大いに盛り上がった。2日当日の学術講演会では、講師に、30年前の第1回の講師を勤められた、ボストン大学歯科部客員教授・愛歯技工専門学校学校長の桑田正博先生をお迎えし、「これからの修復治療、そして審美治療」をテーマとし、県内の歯科医師・歯科技工士・歯科技工士学校の学生など合わせて40名が参加した。初めに山形県歯科医師会佐藤博嗣会長、山形県歯科技工士会赤塚幸伸会長より挨拶をいただいた。佐藤会長には、日本歯科医師会大久保会長と桑田先生の対談を実現することをお約束いただき、また赤塚会長には、桑田先生がアメリカの補綴歯科学会名誉フェローに選出され、表彰式は来年5月にアメリカ・シカゴで行われること、そしてこの栄誉は歯科技工士としては初めての快挙であると紹介された。講演では、先生が材料の開発からかかわった金属焼付ポーセレンクラウンのルーツから話され、当時1962年アメリカに留学され人生を変える歯科医師と出会う。真に素晴らしいと言える人々に、実に多く出会えたことを幸運に恵まれすぎたと語る。代表する著書に「セラモメタルテクノロジー1・2」がある。この中に、「なぜの追求」を自らの心構えとし座右の銘は「意志あるところに道あり」とある。このベストセラー本がここ山形の羽黒山の宿坊に籠もられて執筆されたそうだ。大変驚きである。修復治療とは、そこにあるべき姿をそこに再現することである。それは口腔の失われた硬組織、

軟組織を適切な材料を選択し、機能的で審美的な形態と状態に創生することで我々が作る修復歯は、患者さんがその存在も認識せずして違和感がなく生活が営とに要があり、そしてその歯は、患者さんの心理的健康、生理学的健康を永続的することを意味する。ある女性当時32歳の症例では、20年に渡って経年的に検ておられた。そこには、術前にはなかった、明るく幸せのオーラを放ち充実したねてこられた女性が笑顔で映っていた。また桑田先生ご自身の口腔内、65歳での療、インプラント、オールセラミックスなどの患者体験を紹介された。今回は学かに形として自在にあらわせる造形能力を身につけなければならないこと、プラてたら迷わないことだと教えていただいた。最後の質問に答える中で、熱く我々工士のこれから進むべき道を示された一言一言に胸をつかれた。世界はグローバムが進み医療は日本に求められている今、「日本の歯科医療は我々日本の歯科技任せて下さい。」と強く言いたい。一人一人が努力し技術の向上をはかり、常にを忘れず自分を高めて行くことこそが、これから大切なのだとあらためて強く感られ、記念すべき意義のある講演会であった。最後に、1978年から30回にわたカいただいている山形県歯科医師会の皆様に心から感謝を申し上げる。

第50回東北ブロック宮城大会

技工士会専務理事　　阿部　和夫

12・13日の両日に跨り会議・野球・ゴルフ・ボウリングが開催され、東北6県5名の会員が参加した。会議は仙台市青葉区のKKRホテル仙台の4階会議室に6県37名の参加で行われた。会議前に議事運営委員会に各県一名（山形は阿部出席で会議の議題上程審議順等を担当県の大久田専務理事から説明を受け会議場へ。宮城県技の大久田専務理事の司会進行で開会の辞の後に佐藤誠宮城県技会長、内東北ブロック長の挨拶があり、担当県の宮城県より佐々木勇前会長が議長に選ばれて議事録署名人（担当県の前後開催県専務理事）二名が選出され議事に入った。から七号まで議案があり詳細の程は宮城から議事録が提出され次第に山形県技ムページ等で報告するが主な議題として時間を要したのは①公益法人移行に関題②海外委託技工問題③組織拡充問題であった。

については日技の新公益法人制度への対応を参考にしながら同様に青森・秋田・岩手・宮城の4県は検討したい、山形・福島県は一般社団法人（複数形式あり）で検討していきたいとの見解であったが日技配下の各県支部としての法人化もあり得るのではとの意見もあったが平成23年には法人格を取得すべく認定の申請をするか否かを決断することになる。この問題について平成21年2月28日に札幌で開催される北海道・東北ブロック実務者会議において日技より詳細の説明がある予定なので後日、改めて報告する。

海外委託技工問題については、先に東京都の技工士数十名連盟で国に対して海外に技工発注を容認しているのは怠慢かつ違法であり自分達にとって経済的多大な損害と苦痛を与えたとし損害賠償を請求していたが控訴棄却で全面敗訴となったが、海外歯科技工物（特に中国の技工物）の安全性や国内の歯科技工体制崩壊を危惧する歯科医師の先生方の声や、厚生労働省の対応、例えば海外技工の量・質・金属材料の種類は把握せず容認、海外技工物に関しては『雑貨』扱いで『医療品』ではないので届け出や検閲検査は必要なし等あまりにも無責任な言動に日技として良質な国民歯科医療を確保するために法令整備を求め訴えていくこととした。さらに法令遵守を推進しつつ、日本歯科医師会と連携して、国民歯科保健医療の向上に資するべくその役割を尽くすとの見解を声明した。いずれにしても海外に技工物が流出するのは我々技工士にとって損はあっても得にはならない話なのでいずれ何らかのアクションを起こす必要があるのではないか。

③ 組織拡充に関しては秋田・山形は技工士学校の閉校で新卒の技工士の入会が望み薄で未入会者へ行事（研修会・レクリエーション）への積極的に呼びかけをするなどいつもながらの代わり映えしない意見が出たが現状をみると山形県技も200名をはるかに割り込み日技に関しては最大20,000もいた会員が現在約35パーセント減と危機的状況にあることを認識しこれ以上の退会者を阻止する何らかの手立てをかんがえることが急務と思える。さらに今後のブロック会議のあり方については、毎年の東北ブロック会議を縮小化して（山形県技提出議題）会議経費を削減することが会員減少の現状のなか適当ではないかと提案したところ満場一致で合意を得た。

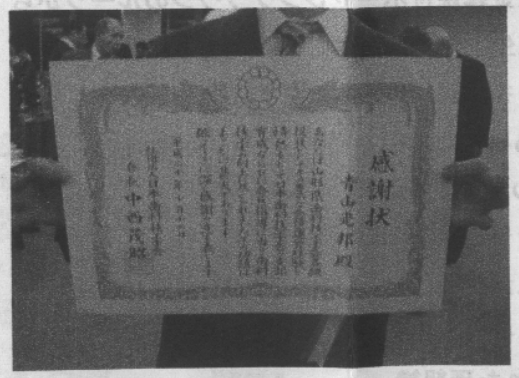
会議の終盤に日技から古橋副会長が来場し時局報告し15分間の質疑応答（主に海外委託技工問題が中心であったが後日これも議事録で報告する）で、会議は閉幕し同ホテルの懇親会場へ移動した。

今回5年に一度の周年大会で表彰があり山形県3名の表彰者は次の通りです。

◇日本歯科技工士会会長感謝状　　青山　光邦　氏

◇日本歯科技工士会東北ブロック会長賞　　今野　浩次　氏

◇　野球功労賞　　鈴木　良仁　氏



ウリング大会

庄内支部　　斉藤　博夫

2日目仙台市台原C-Bicを会場に開催されました。30人の参加で内3割程のマイ
一参加でした。本県からは選抜通過の斉藤博夫、長沢美穂、2名のエントリーし
，競技は3ゲームの合計点で県別団体戦と個人戦です。本県は岩手県と合同チー
参加です。勝負にこだわらず投球の合間に会員同士談笑したり、情報交換したり
ックスした試合運びでした。結果は団体戦優勝福島県、準優勝青森県、以下発表
人優勝は福島県の渡辺直也さんでハイスコア―246ピンでした。本県の斉藤博夫
でした。

ルフ大会

庄内支部　　渡辺　秀治

13日仙台市泉区の泉パークタウンゴルフクラブで東北ブロック大会ゴルフコン
われた。当日は晴天で、絶好のゴルフ日和だった。ゴルフ場は東北屈指の名門ゴ
で、終始快適にプレーすることが出来た。私はゴルフを始めたばかりだったので
方達に迷惑をかけないかと心配していたが、みなさんとてもフレンドリーに接し
さったので、緊張することなく楽しくプレーすることが出来た。普段は技工士会
の方達とは会議や勉強会以外で接する機会がないので、技工以外で交流を深める
のも新鮮だった。

球大会

村山支部　　佐藤　豊

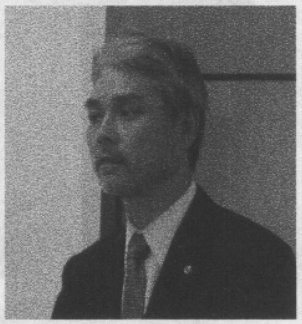
回東北ブロック野球大会が、10月12日（日）宮城県大和町の“ウエルサンピア
泉”野球場を会場に開催されました。今年の大会は、5年に一度の東北大会でし
年は北東北と南東北に分かれて試合を行っており、青森、岩手、秋田、とは5年
顔合わせとなりました。久しぶりに見るチームはユニフォームも変わり、選手の
も随分と変わっているようでした。一方、我が山形県チームはいつものユニフォ
いつもの顔ぶれでの参加と成りました。山形県の第一試合は、戦い慣れた宮城県
戦でした。序盤はピッチャー兼子君の力投と、キャッチャー佐藤亮君の若手二人
の活躍で接戦となり、「今年は勝てるかな？」と思ったのもつかの間、回が進むにつれて
足をつってしまう人が出てしまい（今年もか…）失速。結局、今年も敗れてしまいました。気を取り直して第二試合は、久しぶりとなる秋田県との対戦でした。秋田県は、前大会の優勝チームです。体力、気力を振り絞り、善戦したものの3回に連打を浴び、以降はズルズルと…。大敗でした。対戦成績は0勝2敗、Aブロック3位で決勝進出ならず。結果はともかく、秋晴れの青空の下野球を楽しんだ一日でしたが、年々体力の衰えを感じさせられた一日でもありました。来年は選手が集まるのでしょうか？心配です。参加した選手のみなさんご苦様でした。

山形県歯科技工士会会報

H20・12月

《生涯研修会開催》

平成20年6月22日に県主催の生涯研修会が、共同の杜JA研修所を会場に開催された。今回は、大阪より日技常任理事で、日技認定講師でもあられる、時見高志氏を講師に迎え行われた。ちょっと強面の顔（失礼）に反して、関西人らしいユーモアの利いた親しみやすい語り口調で講義が進められ、時折笑いの交じったリラックスムードで講習を受ける事が出来た。最後の方では、H19年11月に視察に向かった上海・大連の歯科技工の様子をスライドで見せていただいた。

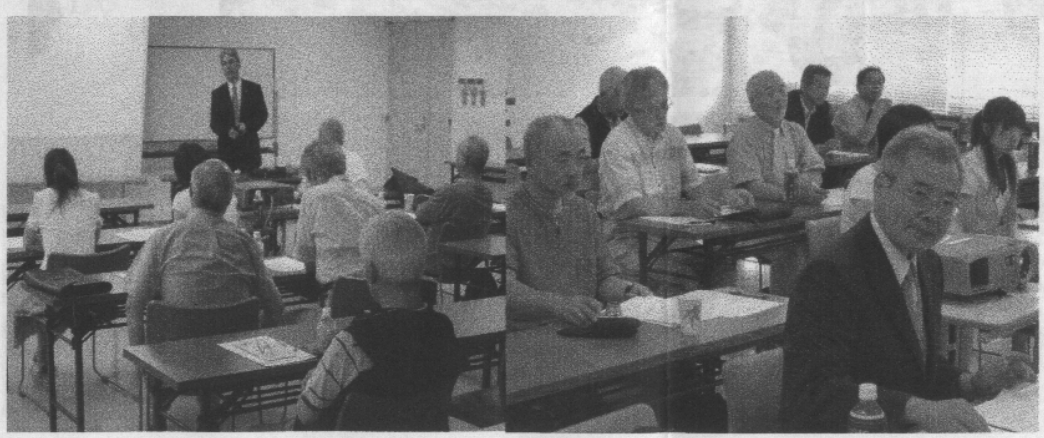


〔平成20年4月実施歯科診療報酬改定の内容について〕

平成19年に日本歯科技工学会が行った「歯科技工のタイムスタディ調査・研究」のデータによる裏付けをもとに、国に点数の見直しを要望した事で点数改定が実現した。

金属裏装ポンティック・クラスプ・メタルコアなどの点数がアップした。

若者の技工士が減少している原因が、長時間労働の割りに賃金が低い事にあるのではないか。技工士数の確保と、安定して良い品質の物を供給するためには、報酬も適正にしなければならない。



〔熱可塑性アクリル樹脂を使った義歯作成と応用〕

BMG社製の「アクリショット」という熱可塑性アクリル樹脂が新しく発売さ
になった。生体安全性が高い、成型性が優れている、新たな機器を必要としな
理補修が容易である、というコンセプトで開発され、より適合がよく変形量の
義歯を作成する事が可能になった。保険適用材料になっているので加熱重合レ
らの移行が期待できるのではないか。

四支部合同レクリェーション

四支部合同レクリェーションが、7月6日（日）に置賜支部の担当で、南陽
ンヒルを会場に催された。昨年は選挙のために行えず、2年ぶりの開催となっ
回はパークゴルフとバーベキューということで県内各地より29名の参加があ

開会式のあと赤塚会長と参加者代表の中川さんによる始球式が行われ、プレ
タートした。難しいコースに皆、悪戦苦闘しながらも自然の中でのプレーを楽
いるようだった。お風呂に入ってさっぱりしたあとバーベキュー大会が始まり
腹いっぱい食べながら思い思いの話に花を咲かせて賑やかに会を満喫していた

参加者のみなさん、お疲れ様でした。